

## 鳥獣人物戯画の伝来について

藤岡摩里子（早稲田大学大学院博士後期課程）

高山寺蔵「鳥獣人物戯画」(以下、「戯画」とする)は現在四巻1セットで伝わっているが、もとは現在の体裁ではなかったと考えられる。四巻がどういう由来を持ちどのような経緯で現在に至っているのか、わからないことが多い。このたび高山寺古文書にてその伝来に関する文献資料を探索した結果、「戯画」に言及していると考えられる二つの新たな資料を得ることができた。本発表では従来の伝来資料にこの新たな資料を加え、「戯画」が高山寺においてどのように保存継承されていったのかをより具体的にし、それによって「戯画」をとりまく諸問題解決の足がかりをつくることを目的とする。

今回新たな伝来資料として提示する一点目の資料は、明恵 1173-1232 が生前に所持し弟子に相伝された品を、明恵死後に孫弟子にあたる仁真 1218-1303 が書きあげた鎌倉期の目録「木秘本入目六」(13世紀後半頃)である。この目録中に「遊戯集一帖」「閑居中戯咲集一帖」という品が記されているが、これが「戯画」中の人物巻である、丙巻の前半と丁巻の原型ではないかと推測する。両者は「帖」の単位をもって記されているが、帖とは通常折本のことを指す。一方、「戯画」人物巻の画面構成は絵巻特有の連続した画面ではなく、個々の場面がある程度独立性を保っている体裁である。これは原本が折本であった結果によるのではないかと考える。これにより人物巻の主題は、遊戯を集めたもの、戯れ笑う様子を集めたものであり、一貫したある種のストーリーを描くことを主眼としていないことをはっきりさせるのではないかとと思われる。同時に、丙巻後半部の動物戯画は、別にあったものが紛れ込んだものと考えられる。さらに、丙巻末尾の奥書「秘蔵々々之絵本也」の解釈につき、丙巻の出自が明恵秘蔵の本であったという意を包含しているのではないかと推測する。

そして新資料の二点目は江戸初期の「三宅玄蕃書状」(17世紀中頃)である。本書状では「され絵四巻」という「戯画」のことを指すと思われる絵巻について、高山寺三尊院の寺僧が東福門院(徳川和子 1607-78)の御附武士であった三宅陳忠 ?-1693 を介して後水尾院 1596-1680 による叡覧を依頼し、それが実現したことがわかる。また当時絵巻が損傷していたこと、それにより院側から修復の提案があったことも明らかになった。この功績に関わった高山寺三尊院の院主は、高山寺在住の仁和寺僧裔恰(晩年に真性と改名) 1501頃-1579の弟子にあたり、裔恰も元龜元年 1570の伝来関係文書の筆者として「戯画」の保存継承に関わってきたと考える。本書状における「され絵」の意は戯れ絵(ざれ絵)であり、これに先立つ伝来資料である永正十六年 1519の目録でも、「戯画」のことを「シャレ絵」と表記していることから、十六世紀から十七世紀当時には戯れ絵的要素があるという理由で、ある時点でひとまとめにされて伝えられてきたことがうかがえる。従って、各巻の当初の制作意図は各巻それぞれに考察すべきとの方向をこの新資料は指し示していると思われる。